

第 7 次基本計画 (令和 7 年度実施状況)

施策評価シート

第 2 節 5つのまちづくりの目標に関する取組

第 2 明日を拓く力みなぎる産業のまち

1 地域の特性をいかした産業の振興

基本施策 08 農業の振興

基本施策 09 林業の振興

基本施策 10 水産業の振興

基本施策 11 工業の振興

基本施策 12 商業の振興

基本施策 13 企業立地の促進

基本施策 14 観光の振興

基本施策 15 雇用・労働環境の整備・充実

2 産業基盤の整備促進

基本施策 16 新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進

基本施策 17 港湾整備とポートセールスの推進

基本施策 18 苫東開発の推進

自己評価

B

農業の振興に向けて、成果が出ているが、より改善していくよう努めていく。

SDGs17の目標



基本目標

担い手の育成・確保に努め、農業経営の安定・向上を目指すとともに、農業生産に必要な農地の確保とその有効活用により、農村環境の保全を図ります。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「農業、林業、水産業を安定させ、向上を図ること」への市民満足度（％）	67.4	74.2	—	—	—		
認定農業者数（農家）	23	23	25	24	29		
担い手への農地利用集積（％）	66.6	70.0	69.5	75.9	76.3		

主要施策の取組状況

1 担い手の育成・確保と農業経営体質の強化		評価点	5	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（具体的年度取組）	・新規就農の相談対応 ・認定農業者の育成、確保 ・新規就農者等に対し、施設・機材・設備等の導入や投資への支援を実施 ・農業経営安定のため、JAや関係団体が実施する事業に対し補助金等を交付				
	就農相談に対する個別のきめ細やかな対応を軸に、新規就農者と認定農業者の定着を図ります。農業者それぞれの経営意向やニーズを的確に汲み取り、次世代の担い手が効率的で安定した農業経営を実現できるよう、長期的かつ包括的な支援を続けてまいります。				
2 都市農村交流や地域コミュニティ機能の発揮等による地域資源の維持		評価点	4	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（具体的年度取組）	・樽前交流センターの管理 ・産直マップの作成、配布 ・多面的機能支払交付金事業の活動組織への補助金交付 ・農業者と樽前小学校児童親子との交流				
	樽前交流センターや産直マップを活用した交流促進を図るとともに、多面的機能支払交付金事業の継続を通じて、都市農村交流の活性化および地域資源の維持・保全に引き続き努めてまいります。				

3 地域資源を活用した新事業や利用促進の推進		評価点	4	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（R7年度） 具体的な取組	・地元農畜水産物消費拡大事業を補助 ・地域資源活性化推進事業を補助				
	地域資源活性化推進事業補助金交付要綱に沿って、地元食材の魅力発信を目的とした生産者と事業者のマッチングを目指す取組に対する補助を実施してまいります。				

4 関係機関と連携した鳥獣被害防止対策の実施		評価点	4	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（R7年度） 具体的な取組	・くくりわなによるエゾシカ捕獲事業や侵入防止柵整備を行う鳥獣被害防止対策協議会に対し補助を実施 ・JAが実施するエゾシカ捕獲事業に対し補助金を交付				
	苫小牧市鳥獣被害防止計画に沿って、引き続きエゾシカによる食害を中心とした農業被害の軽減を推進してまいります。				

自己評価

A

林業の振興について、趣旨に沿って進められている。

SDGs17の目標



基本目標

森林の有する多面的機能が持続的に発揮されるよう、森林施業の促進を図ります。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「農業、林業、水産業を安定させ、向上をはかること」への市民満足度（％）	67.4	74.2	—	—	—		
市有林の施業面積（ha）	14	122	43	64	85		

主要施策の取組状況

1 公益機能を重視した森林施業の促進		評価点	5	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（R7年度） 具体的な取組	森林整備面積（美沢市有林） ・伐採（7ha） ・地拵え（6ha） ・下刈り（15ha）				
	市有林の計画的な更新に努め、適正な森林施業を進めます。				
2 林業経営の指導		評価点	5	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（R7年度） 具体的な取組	・造林実施者の事業に対する補助 森林所有者 1 個人 1 団体 ・伐採届者（森林所有者、林業事業者）への適正な実施の指導20件				
	適正な森林施業となるよう、森林所有者や事業者への支援を行います。				

3 森林の保護

評価点	5	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
-----	---	------	---------------

（具 R 体 7 的 年 な 度） 取組	・ 野鼠駆除の実施 ・ 北海道や近隣町との連携（市町村森林整備計画、森林整備事務打合せ会議） ・ 苫小牧地区林野火災予防対策協議会の開催 ・ 広報とまこまいへの林野火災注意文掲載 ・ 林野火災注意喚起（横断幕設置、小中学校等への指導） ・ 山火事警報発令時の関係者への連絡
今後の 取組の 方向性	野鼠やエゾシカの食害や、林野火災によって森林が失われると、土砂流出防止や生物多様性保全などの森林が持つ多面的機能が失われ、地域に及ぼす影響が大きいことから、引き続き適正な森林保護や指導を行います。

基本 施策 10 水産業の振興

方針・施策番号 22110

自己評価

B

水産業の振興に向けて、成果が出ているが、より改善していくよう努めていく。

SDGs17の目標



基本目標

水産資源の保護に向けた取組を進め、生産基盤の整備や栽培漁業を推進します。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「農業、林業、水産業を安定させ、向上を図ること」への市民満足度（％）	67.4	74.2	—	—	—		
漁業協同組合員数（人）	125	維持	107	107	104		
漁業算出額（百万円）	1,451	維持	1,885	1,908	2,417		

主要施策の取組状況

1 資源の保護と増加		評価点	4	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（R7年度） 具体的な取組	・ マツカワ種苗放流事業への補助実施 ・ さけ・ますふ化放流事業への補助実施 ・ 水産試験研究機関などが実施する調査、研究への支援及び参加 ・ 胆振管内ししゃも不良に伴う調査研究費用等の補助実施				
今後の取組の方向性	豊かな前浜の資源の保全や、気候変動等による影響を最小限に留めるため、今後も水産資源の保護と増殖に対する支援を継続してまいります。				
2 漁業経営安定化の確立		評価点	4	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
（R7年度） 具体的な取組	・ 漁業近代化資金利子補給事業 ・ 水産関連団体への負担金補助 ・ 苫小牧産ホッキ貝等安定供給事業の実施				
今後の取組の方向性	漁業経営安定化のため、水産関連団体への補助および漁業者の設備投資等に対する支援を今後も継続してまいります。				

3 豊富な海産物の魅力発信

評価点	4	担当部署	産業経済部 農林水産振興課
-----	---	------	---------------

（R7年度） 具体的な取組	・ 苫小牧漁港ホッキまつの開催 ・ 苫小牧産水産物パワーアップ事業の実施
今後の取組の方向性	これまで実施してきた取組を継続するほか、市内外に向けて各種媒体を活用した海産物の魅力発信を実施してまいります。

自己評価

B

工業の振興に向けて、多くの取組を実施することで一定の成果が出ている。今後も、技術革新に地域の産業が対応できるよう、取組の改善を進める。

SDGs17の目標



基本目標

地域企業の振興と活性化、生産技術の高度化を図るため、各種の支援と関係機関との連携を一層強化します。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「中小企業の振興を図ること」への市民満足度（％）	61.5	67.5	—	—	—		
技術講習会回数（回）	38	45	44	41	46		
技術相談・指導回数（回）	66	85	90	103	90		

主要施策の取組状況

1 中小企業の振興と技術支援		評価点	5	担当部署	産業経済部 工業雇用政策課 産業経済部 商業振興課 産業経済部 テクノセンター
(R7年度) 具体的な取組		・ 苫小牧イノベーション活性化事業補助金の交付（3件採択） ・ （公財）道央産業振興財団補助金の交付 ・ 苫小牧地域産業力強化補助金の交付 ・ 市内金融機関を訪問し、市融資制度の利用促進（新規利用170件） ・ 小規模企業経営改善資金を利用した小規模事業者が負担する信用保証料を補給（97件） ・ 中小企業振興審議会の開催（3回開催） ・ 苫小牧市中小企業者サポートブックの内容見直しを行い作成、公表 ・ 苫小牧市テクノセンター技術相談、指導の実施（90件）、依頼試験、機器利用の実施（2,903件）、新入社員・中堅技術者向け常設研修会の実施（実施回数40回、参加数80名）、一般研修会・講習会の実施（実施回数6回、参加者121名）、共同研究事業の実施（1件）			
	今後の取組の方向性	・ 市内の企業等が、先進技術やアイデアを導入し、課題解決や新規事業の創出に向けて行う取組に対し補助金を交付することで、新技術等を導入する機運の醸成や産業の活性化を図ります。 ・ 「第二次苫小牧市中小企業振興計画」に基づき、中小・小規模事業者に対する支援を実施します。中小企業振興審議会においては、令和8年度に実施する中小企業実態調査の結果も踏まえながら、事業者の現状や課題について議論を深め、中小企業振興施策の充実につなげます。また、「苫小牧市中小企業者サポートブック」については、事業者がより活用しやすいよう掲載内容の更新を行います。 ・ 融資制度については、令和7年度に信用保証料補給対象の拡大や店舗近代化設備資金の貸付期間を15年から20年に延長を行ったところであり、引き続き、中小・小規模事業者の円滑な資金調達につながる制度運用に努めます。 ・ テクノセンターの依頼試験、機器利用につきましては、X線CT装置や万能試験機を用いた引張試験の利用が依然として高い水準で推移しています。今後も装置のPRや、装置を活用した研修会の実施を通じて、利用件数の維持に努めます。また、常設研修会については、新たに導入した顕微鏡観察用試料調整システムを対象とした研修テーマを追加し技術者の育成に努めます。			
2 産学官金連携による産業力の強化		評価点	4	担当部署	産業経済部 工業雇用政策課 産業経済部 テクノセンター
(R7年度) 具体的な取組		・ 苫小牧地域産学官金連携負担金の拠出 ・ C-base運営協議会負担金の拠出 ・ （公財）道央産業振興財団や苫小牧工業高等専門学校、市内金融機関などとの産学官金連携を目的としたものづくり企業活性化チーム（GKK）活動（情報交換会8回、企業訪問4回など）			
	今後の取組の方向性	・ 苫小牧高専サテライト「C-base」を拠点に苫小牧地域のものづくり産業の活性化を図ります。 ・ GKK活動を中心に、（公財）道央産業振興財団や苫小牧工業高等専門学校、市内金融機関などとの産学官金連携を強化し、地域企業における技術力の向上・高度化を目指します。			

3 再生可能エネルギー導入の推進

評価点	3	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
-----	---	------	---------------

（R7年度） 具体的な取組	・国や北海道が主催する会議・セミナー等への参加 ・導入や、地域進出を検討する企業と面談・意見交換の実施 ・国が行う、水素やアンモニア等の導入にかかる支援へ応募する企業に対し、申請に向けた支援の実施
今後の取組の方向性	・昨年度に引き続き、国や北海道が主催する会議・セミナー等への参加を継続し、再生可能エネルギー導入に向けた政策等の情報収集を行います。 ・また、『価格差に着目した支援』や『拠点整備支援』に関し、申請をしている企業があるため、採択結果に留意し、採択された際には水素やアンモニア等の導入に向け、適宜支援を行います。

自己評価

B

幅広い支援メニューの利用により、基本目標の達成に向けて多くの成果が得られている。今後も更なる商業振興に向けて取組の改善を行う。

SDGs17の目標



基本目標

商業の振興を図るため、中小・小規模事業者に対する商業経営基盤の強化及び経営の安定を促進し、ライフスタイルの変化による市民の多様なニーズに対応した魅力ある商店街づくりを進めます。

また、本市の産業及び地域経済の発展のため、市内事業所の9割を占める中小企業の振興支援を推進します。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「中小企業の振興を図ること」への市民満足度（％）	61.5	67.5	—	—	—		
創業促進・商業にぎわい事業施策利用数（件）	63	70	58	69	57		
事業承継セミナー受講者数（人）	20	30	7	15	8		
とまチョップポイント利用者（％）	18.6	26.5	—	—	—		
とまチョップポイント加盟店（店舗）	165	350	151	163	141		

主要施策の取組状況

1 中小・小規模事業者に対する商業経営の安定と強化		評価点	4	担当部署	産業経済部 商業振興課
（R7年度） 具体的な取組	・市内中小・小規模事業者における主要な相談窓口である、苫小牧中小企業相談所への補助金支出 ・創業セミナーの開催、創業セミナーを受講した創業者への補助金支出（22件） ・市内の事業者間で成立した事業承継に対し、譲渡側への給付金支出（2件） ・市内金融機関を訪問し、市融資制度の利用促進（新規利用170件） ・小規模企業経営改善資金を利用した小規模事業者が負担する信用保証料を補給（97件） ・中小企業振興審議会の開催（3回開催） ・中小企業振興審議会の意見を反映しICT推進コミュニティ創出事業の実施（セミナーを11回開催し、延べ116人が参加） ・苫小牧市中小企業者サポートブックの内容見直しを行い作成、公表				
	「第二次苫小牧市中小企業振興計画」に基づき、中小・小規模事業者に対する支援を実施します。中小企業振興審議会においては、令和8年度に実施する中小企業実態調査の結果も踏まえながら、事業者の現状や課題について議論を深め、中小企業振興施策の充実を図ります。また、「苫小牧市中小企業者サポートブック」については、事業者がより活用しやすいよう掲載内容の更新を行います。 融資制度については、令和7年度に信用保証料補給対象の拡大や店舗近代化設備資金の貸付期間を15年から20年に延長を行ったところであり、引き続き中小・小規模事業者の円滑な資金調達につながる制度運用に努めます。 市の将来を担う中小・小規模事業者へのサポートを強化するため、創業サポート事業やICT推進コミュニティ創出事業について、苫小牧中小企業相談所などと連携を図りながら効果的な事業を実施いたします。				
2 地域の商店街及び地域経済の活性化		評価点	4	担当部署	産業経済部 商業振興課
（R7年度） 具体的な取組	・イベント・環境整備等事業助成金の交付（20件） ・空き店舗活用事業（店舗賃借料の補助、移転改装費の補助）（8件） ・店舗改装費補助金の交付（7件） ・地方創生地域コミュニティ活性化事業（とまチョップポイント事業）補助金の交付 ・苫小牧市商店街振興組合連合会の事業運営に対する補助				
	苫小牧市商店街振興組合連合会が行う商店街の活性化、魅力ある商店街づくりを促進するための事業運営補助を引き続き実施します。 商店街等に対する助成については、令和8年度に「ICT・インバウンド環境整備補助金」を創設し、市内店舗の業務効率化やインバウンド需要の取り込みによるにぎわい創出を図るとともに、今後も商店街や事業者の声を反映し、制度の充実に努めてまいります。				

自己評価

A

企業立地の促進について、趣旨に沿って進められている。

SDGs17の目標



基本目標

本市の強みでもあるものづくり産業や物流関連産業の更なる集積を図るとともに、カーボンリサイクルや水素、再生可能エネルギー等のゼロカーボン関連産業等、新たな成長が見込まれる産業の展開を進め、雇用の創出や地域経済の活性化につなげます。

また、企業とそこで働く方々が快適に活動できる環境を整え、立地企業の更なる発展を支援します。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「工業地域の開発と企業の誘致を進めること」への市民満足度（％）	68.3	70.0	—	—	—		
工業団地内において新規に土地を購入した延企業数（社）	832	846	853	868	877		

主要施策の取組状況

1 企業誘致と産業基盤の整備		評価点	5	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
具体的な取組 (R7年度)	・時代の流れに応じたPRや企業訪問など、戦略的な企業誘致の実施 ・港湾区域を中心とするインフラ整備や、基盤整備に伴う要望活動の実施 ・企業で働く方々の、生活環境の向上に繋がる施設整備に対する支援 ・立地企業への訪問活動などによる企業ニーズの把握 ・苫小牧市産業フィールド視察ツアーの開催 ・半導体関連企業向け、メール広告の配信や産業新聞への記事掲載 ・海外企業に向けたPR及び関係構築のための国際経済フォーラムの視察				
	今後の取組の方向性 ・港湾や空港を擁する産業拠点都市として、企業の利便性向上や従業員の生活環境の向上などにつながる施設整備などを支援し、立地環境の向上に努めます。 ・国や道、関係機関などに対し、港湾等の機能向上や物流効率向上を求める施設整備に係る要望活動に参加するなど、企業誘致に繋がるよう関係機関と連携した取組を進めます。 ・進出拠点の候補地としての認知度向上を図る事業を実施するほか、進出意向調査において関心があった企業を中心に、本市の立地優位性を認識できる視察ツアーや地元企業との交流会を開催するなど、企業進出を促進する事業を展開してまいります。 ・経済効果が高いと判断する企業や事業等の状況をしっかりと把握し、企業進出へのニーズ等が高まるタイミングで積極的且つ的確なトップセールスを含む企業訪問を実施します。 ・海外企業に向けて苫小牧の優位性やポテンシャルをPRするため、国際経済フォーラムに参加し、市長によるプレゼンテーション等の活動を実施します。				
2 立地企業への支援		評価点	5	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
具体的な取組 (R7年度)	・従業員の職場環境の改善や、人材確保及び販路拡大につながる支援 ・中小企業を対象としたゼロカーボン促進に向けたセミナーやコンサルティング及び設備投資への支援 ・企業の生産設備等の新增設に伴う設備投資に対する助成を行い、企業の生産活動を支援 ・企業ニーズや社会情勢を勘案し、助成内容の見直しについて検討 ・各種助成金、補助金や他市の制度に係る調査研究				
	今後の取組の方向性 ・時代の変化に応じて様々な課題を抱える立地企業のニーズ把握に努め、設備導入等に係る補助や支援を行います。 ・生産設備等の新增設を検討している企業や、今後、成長を見込まれる産業の状況を把握するなど、より活用しやすい制度づくりを目指し取り組みます。				

自己評価

B' 観光振興について、観光入込客数が目標を上回るなど一定程度の成果は得られたが、冬季を含む閑散期対策等の課題があることから、イベントの周知などを積極的に行い、解決に努めていく。

SDGs17の目標



基本目標

地元観光資源を再確認し、地域の特性をまちの魅力として、積極的な情報発信に努めることで、交流人口の増加によるにぎわい創出と地域経済の活性化を目指します。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
苫小牧市観光入込客数（万人）	150	260	264	289	279		
観光案内所利用状況（件）	13,000	40,000	16,474	19,605	18,635		
各種イベント観客動員数（万人）	2.2	55	54	55	56		

主要施策の取組状況

1 地域の魅力の有効活用		評価点	4	担当部署	総合政策部 観光政策課
（具体的年度取組）	・観光PR推進事業の実施（本市をPRする特産品等の販売又は広報を行う団体に対し、経費の一部を助成） ・情報誌やインターネットなど、各種媒体を活用した本市の魅力発信 ・道外での観光PRの実施 ・SNSによる観光情報の発信（LINE・X） ・道の駅ウトナイ湖等でのイベント開催 ・AIRDO機内エンターテインメントサービス広告掲載				
	今後の取組の方向性 本市には、溶岩ドームを持つ世界でも珍しい三重式活火山の「樽前山」や、全国屈指の渡り鳥の中継地として知られている「ウトナイ湖」などの豊かな自然や、漁獲量日本一の「ホッキ貝」に代表される美味しい海産物など、様々な観光資源が点在します。 これらの観光資源の魅力向上を図るとともに、各種イベントについては情報誌やSNSなど様々な媒体を活用しながら、観光関連事業者とも連携して情報発信体制を強化することにより、国内観光需要及びインバウンド需要の創出につなげます。				
2 観光推進体制の強化		評価点	4	担当部署	総合政策部 観光政策課
（具体的年度取組）	・中学生を対象とした産業観光バスツアーの開催 ・ビジットとまこまい観光会議委員を対象とした船舶を活用した釣りや産業観光モニターツアーを実施 ・北海道教育旅行説明会相談会を活用し、大阪府・京都府・兵庫県の旅行会社に対し、本市への教育旅行実施について説明 ・アニメツーリズム推進事業として、人気アニメ「ウマ娘 プリティーダービー」とのコラボレーションにより、苫小牧市内を周遊しながら楽しむことができるクイズラリーを開催 ・「ドックスレッド」では、nepiaアイスアリーナリンクフェンスに広告を設置したほか、第20回全国高等学校選抜アイスホッケー大会とコラボし大会ポスターやプログラムにイラストを使用しアイスホッケー関係者に対しコラボしていることのPR ・エスコンフィールドHOKKAIDOにおいて苫小牧市の観光PRの実施 ・COCOTOMAと道の駅ウトナイ湖観光案内所の運営 ・苫小牧市観光振興ビジョン【第2期】の策定 ・ビジット苫小牧観光会議の開催 ・産業観光ガイドブックの更新				
	今後の取組の方向性 令和8年3月に新たな苫小牧市民文化ホールが誕生したことにより、スポーツ合宿誘致だけではなく、学術・文化大会などの誘致を推進するため、本市MICE誘致推進協議会や関係団体等と連携しながら、本市への誘客促進を図り、宿泊者数を増やす取り組みを推進します。 また、近隣自治体を広域的な観光圏と捉え、各自治体を持つ観光ポテンシャルを十二分に発揮し、来訪者の増加及び長期滞在を促すため、各自治体が連携した観光・食のPRを行うスタンプラリーに参画することにより、地域経済の発展や活性化につなげ、各自治体が広域連携のメリットを享受できるよう連携を図ります。				

3 新たな魅力づくり

評価点	4	担当部署	総合政策部 観光政策課 産業経済部 企業港湾政策課
(具体的な年度取組)	・とまこまい港まつりの実施 ・とまこまいスケートまつりの実施 ・東胆振物産まつりの実施 ・とまこまいコスプレフェスタの実施 ・テレビやCM等の各種撮影支援の実施 【苫小牧クルーズ振興協議会としての事業】 ・船社訪問、視察対応及び展示会出展等によるクルーズ船誘致活動や情報収集活動の実施 ・クルーズ船受入れ時の地域連携に向けた検討 ・苫小牧市民クルーズ代金助成事業の検討・実施		
今後の取組の方向性	とまこまい港まつりやとまこまいスケートまつりなどの各種イベントの開催により、市外からの観光客の誘致を図るとともに、観光協会などの各種団体と連携しながら地域のにぎわいを創出します。 また、令和9年度導入予定である宿泊税を有効活用し、新たな魅力の創出についても検討します。 クルーズについては、関係部局や関係団体との連携をさらに強化し、スムーズな入港・接岸及び地域の安全に配慮した受入態勢を構築します。入港時には、地域の潜在的な観光資源を活かした歓迎行事や、乗船客に向けた本市の魅力発信を強力に実施し、寄港満足度の向上と地域経済への波及を目指します。 また、誘致活動においては前年度に引き続き、中・小型の外国籍船を主要ターゲットとし、関係団体と連携しながら船社や旅行代理店への訪問、視察対応を継続します。 令和8年度には2隻の入港予定があるため、市民のクルーズに対する関心度の向上や意識醸成を図るとともに、クルーズ寄港・乗船のリピートにつながるよう取り組んでまいります。		

自己評価

B

雇用・労働環境の整備・充実について、各事業の効果は得られている。今後も変化する雇用情勢を把握しつつ、適宜事業の見直しを行う。

SDGs17の目標



基本目標

雇用の確保・拡大と働きやすい職場環境づくりに努めるとともに、職業能力開発体制の強化と勤労者福祉の充実を図ります。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「いきいきと働くことができる場があること」への市民満足度(%)	64.3	69.5	—	—	—		
職場改善企業数(件)	82	90	63	74	65		
地域職業訓練センターの利用人数(人)	17,289	維持	22,740	23,364	21,826		

主要施策の取組状況

1 雇用の確保・拡大と若者の地元就職の促進		評価点	5	担当部署	産業経済部 工業雇用政策課
（具体的年度取組）	・就職氷河期世代を含む中高年者や若年無業者等の不安定就労者を支援する「みんなの就活応援事業」を実施（就職者数：23人） ・地元企業への理解促進と学生の職業観の醸成を図る「就業チャレンジ支援事業」を実施（バスツアー参加者数：127人） ・就職マッチングサイト「とまジョブ」を運営（掲載企業数：799社） ・市内企業の新卒採用を支援する「採用力強化・機会創出事業を実施」（支援企業数：15社） ・中途採用を希望する企業の人材確保と求職者の転職を支援する「中途採用合同就職説明会事業」を実施（参加企業数：45社、来場者数：75人） ・シルバー人材センターの運営費を補助 ・東胆振・日高・平取地域通年雇用促進支援協議会分担金を拠出				
	今後の取組の方向性 ・企業のニーズに応じた求職者の人材育成を行うとともに、求職者と企業のマッチングの機会を創出します。また、若年層の地元就職を促進するため、企業見学などを通じて地元企業の魅力発信に努めます。 ・東胆振・日高・平取地域通年雇用促進支援協議会で、本市を含む地域の自治体・関係機関と連携し、資格・技能の取得支援やセミナー等を実施し、季節労働者の通年雇用化を促進します。				
2 多様な人材を受け入れる雇用環境の整備・充実		評価点	4	担当部署	産業経済部 工業雇用政策課
（具体的年度取組）	・企業が抱える様々な課題の解決を図り、多様な人材が働きやすい職場づくりを支援する「職場改善コンサルティング事業」を実施（支援企業数：50社） ・女性のスキルアップと就職を支援する「なでしこ就職応援事業」を実施（研修参加人数：46人、就職者数：22人） ・障がい者雇用奨励金事業の対象要件を見直し、企業への周知を実施（奨励金交付人数：7人） ・外国人材受入企業支援事業の企業への周知を実施（交付件数：2件） ・外国人材を雇用する企業や雇用を検討している企業を対象とした「外国人材受入促進セミナー」を北海道胆振総合振興局との共催により実施（令和7年12月3日開催、参加企業：21社）				
	今後の取組の方向性 ・若者、女性、高齢者、外国人、障がい者など誰もが働きやすい職場環境づくりを支援する取組を継続します。				

3 職業能力開発体制の強化		評価点	4	担当部署	産業経済部 工業雇用政策課
（具体的年度） 取組	・ 苫小牧地域職業訓練センター運営協会の運営費を補助 ・ 道立苫小牧高等技術専門学院の入校生に対し苫小牧市ものづくり技能習得奨励金を交付（支給人数：7人） ・ 技能士重用制度を推進し公共工事における技能士の活用を促進 ・ 技能者の社会的地位及び技能水準の向上を図るため苫小牧市技能功労者表彰を実施（受賞者数：5人） ・ 市民技能体験教室を開催（庭木の剪定・内装・日曜大工・左官の全4回）				
	今後の取組の方向性 ・ （一社）苫小牧地域職業訓練センターと連携し、施設の利用促進を図り、企業ニーズに対応した人材育成や労働者の技能向上に引き続き取り組みます。 ・ ものづくり産業に必要な技能・技術を身につけた人材を育成し、地元就職につなげるため、道立苫小牧高等技術専門学院の入校促進を図ります。				

4 勤労者福祉の拡充		評価点	3	担当部署	産業経済部 工業雇用政策課
（具体的年度） 取組	・ 勤労者生活安定資金貸付金の運用（新規貸付件数：7件） ・ 苫小牧市勤労者共済センターの運営費を補助				
	今後の取組の方向性 ・ 勤労者福祉の向上のため、融資制度と共済制度の周知及び利用促進に努めます。				

基本施策 16 新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進

方針・施策番号 22216

自己評価

A

新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進について、多くの成果が得られている。

SDGs17の目標



基本目標

新千歳空港における航空ネットワークの維持・拡大や継続的な安全対策の実施のほか、米軍再編訓練等においては、市民の安全・安心な生活を確保するとともに、空港周辺地域の環境整備を行い、市民生活の利便性向上を図ります。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
新千歳空港の年間利用者数 (千人)	22,809	27,830	22,927	24,826	26,015		
新千歳空港の年間貨物取扱量 (トン)	168,054	223,800	132,649	157,355	157,773		

主要施策の取組状況

1 新千歳空港における航空ネットワークの維持・拡大		評価点	5	担当部署	総合政策部 空港政策課
具 体的 な 取 組 (R7年度)	- 北海道内7空港の一体的運営に関する協議会 【令和7年6月】 - 新千歳空港の運営に関する協議会 【令和7年5月・12月】 - 新千歳空港の運営に関する協議会（分科会） 【令和8年2月】 - 新千歳空港国際化推進協議会主催 カンタス航空「新千歳＝シドニー線」再開記念訪問団への参加 【令和7年12月】				
	今後の取組の方向性 各協議会を通じて、北海道エアポート株式会社等の関係機関と情報共有や意見交換を行うとともに、国際線における誘致活動や訪問団への参加など協力しながら、新千歳空港の更なる成長・発展に努めます。				
2 新千歳空港の利用促進		評価点	5	担当部署	総合政策部 空港政策課
具 体的 な 取 組 (R7年度)	- 北海道空港協会総会 【令和7年5月】 - 北海道空港協会中央要望 【令和7年6月】 - 新千歳空港利用者利便向上協議会 【令和8年3月】 - 北海道誘客促進実行委員会主催 「これがわたしのHOKKAIDO LOVE! 祭 2025」への参加 【令和7年11月】 - 北海道内7空港利用促進実行委員会主催 「パスポート取得キャンペーン第2弾」への協力 【令和7年12月～令和8年2月】 - 新千歳空港整備事業費負担金にて、用地造成（滑走路端安全区域整備、耐震対策）、滑走路耐震対策、誘導路新設、耐震対策等を実施				
	今後の取組の方向性 負担金による空港整備に係る費用負担を行うほか、各協議会や要望活動等を通じて、2次交通の拡充や国直轄の空港整備事業を促進します。また、誘客促進や航空利用促進のためのプロモーション事業への参加や協力などを行い、新千歳空港の利用促進や利便性の向上に努めます。				

3 米軍再編訓練等に伴う安全確保		評価点	5	担当部署	総合政策部 空港政策課
（具体的な取組 R7年度）	令和7年度は千歳基地で米軍再編に係る訓練移転は実施されておりましたが、訓練移転先で構成する「在日米軍再編に係る訓練移転先6基地関係自治体連絡協議会」の活動の中で、7月、11月に要望活動を行いました。 引き続き要望活動を継続して実施し、市民の安全・安心のため、協定遵守や安全確保について求めています。				
今後の取組の方向性	米軍再編に係る千歳基地への訓練移転実施の際には、市民の安全・安心のため、引き続き協定遵守や安全確保について求めるとともに、市においても在日米軍再編問題対策会議や危機管理マニュアル等により体制確保に努めます。				

4 空港周辺地域の環境整備		評価点	5	担当部署	総合政策部 空港政策課
（具体的な取組 R7年度）	・新千歳空港の深夜・早朝時間帯発着枠拡大合意（平成27年3月）に伴う事業 ①住宅防音対策工事（苫小牧市分） 実施件数 16件 ②冷暖房機器等設置（苫小牧市のみ） 実施件数 8件 ・再編関連訓練移転等交付金を活用して、航路下3地域等に計7事業を実施し、空港周辺環境の整備を行いました。				
今後の取組の方向性	・本市では、平成27年3月に新千歳空港の深夜・早朝時間帯の発着枠拡大について地域と合意しており、これに伴う住宅防音対策や地域振興対策の早期実施に向けて、北海道とともに着実に取組を進めています。 ・再編関連訓練移転等交付金については、空港周辺地域の環境整備や地域住民の利便性向上に繋がる事業を行っていきます。				

5 国際リゾートエリアの形成

評価点	3	担当部署	総合政策部 未来創造戦略室
-----	---	------	---------------

（R7年度） 具体的な取組	統合型リゾート（IR）を含めた国際リゾート構想の実現に向けて、北海道と協議を行うとともに、その動向を踏まえた国際リゾート構想の更新に向けた準備を進めました。
今後の取組の方向性	次世代半導体産業の進出やGXの推進等による社会情勢の変化を見据えつつ、国際リゾート構想の更新を本格化させることで、本地域における統合型リゾート（IR）の意義と進むべき方向性を明確にし、次なる具体的な取組へと繋げてまいります。

基本 施策 17 港湾整備とポートセールスの推進

方針・施策番号 22217

自己評価

B

苦小牧港は北日本最大の海上輸送拠点として重要な役割を担っており、さらなる港湾機能の強化や利便性の向上等に取り組んでいる。苦小牧港の魅力発信について一定の成果が出ており、事業の継続・見直しに加え、新たな魅力創造を引き続き進めていく。

SDGs17の目標



基本目標

国内外の物流動向など、港湾を取り巻く環境の変化に対応した機能強化に加え、積極的なポートセールスに取り組むなど、更なる港勢拡大に向けた取組を推進するとともに、港の魅力を多くの方々に発信しにぎわい創出を図り、次なる成長、発展に向けた港づくりを進めます。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「苦小牧港（西・東）の機能を充実させること」への市民満足度（％）	71.0	75.0	73.0	—	—		
外国貿易取扱貨物量（千トン）	16,034	22,200	16,322	16,144	17,981		
内国貿易取扱貨物量（千トン）	88,743	89,600	84,958	83,897	83,729		
取扱貨物量（合計）（千トン）	104,777	111,800	101,280	100,041	101,710		
外国貿易コンテナ取扱個数（TEU）	212,833	300,000	235,495	233,455	228,758		

主要施策の取組状況

1 港湾機能の強化		評価点	4	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
（R7年度） 具体的な取組	- 東港区周文ふ頭複合一貫輸送ターミナルの整備（機能強化） - 西港区本港地区内の埠頭間道路の整備				
	今後の取組の方向性 - 苫小牧港は北日本最大の海上輸送拠点として重要な役割を担っていることから、北海道・本州間における国内物流の機能強化や安定性確保に向けた整備が必要であり、国と連携して周文ふ頭の複合一貫輸送ターミナルの整備を推進します。また、東港区国際コンテナターミナル外貿コンテナ取扱量は北海道全体の7割以上を占めており、国際競争力向上に資する港湾機能の強化が求められていることから、道産農水産物の新たな輸出拠点として温度管理型冷凍冷蔵庫などを核としたロジスティクス機能の強化を求め、関係機関と連携した取組を進めます。 - 次世代エネルギー（水素・アンモニア等）の輸送や利活用など、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化などを通じて、温室効果ガス排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルポートの形成を目指します。				
2 安全・安心を支える港づくり		評価点	4	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
（R7年度） 具体的な取組	- 東港区周文ふ頭複合一貫輸送ターミナルにおける岸壁等の整備（緊急物資輸送） - 西港区東ふ頭、中央南ふ頭における岸壁の改良（老朽化対策） - 西港区東防波堤の改良（老朽化対策） - 元町地区及び勇払浜地区における離岸堤の改良（老朽化対策）				
	今後の取組の方向性 - 災害等による港湾施設の損壊は、北海道はもとより国内の物流に多大な影響を及ぼすため、防災・減災に資する整備や老朽化した施設の機能回復を進めます。 - 国土交通省により整備中の東港区周文ふ頭新規岸壁の整備促進を求め、連携した取組を進めます。				

3 親しまれる港づくり		評価点	4	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課 総合政策部 未来創造戦略室
（R7年度） 具体的な取組 今後の取組の方向性	○苦小牧クルーズ振興協議会 ・苦小牧市民クルーズ代金助成事業（助成金申請受付）の実施 ・ドイツ・ハンブルクで開催されたクルーズ専門の見本市「Seatrade Europe 2025」への出展や、船社訪問などによるクルーズ船誘致活動及び情報収集活動の実施 ○みなとオアシス苦小牧運営協議会 ・港周辺の美化及び魅力向上のため、花壇へ花苗の植え付けを実施 ・みなと写生会やウォーキング、フェリー船内見学など港に親しむためのイベントを実施 ・「みなとオアシスSea級グルメ全国大会inあおもり」への出店を通じた苦小牧産ホッキ貝の市内外へのPRの実施 ○キッチンカー21@トマペイウォーターフロントの実施 7月5日（土）、6日（日）、7月12日（土）、13日（日）の4日間にわたり、キッチンカーの出店のほか、スーパーカーやダンスバトルなど、幅広いジャンルのコンテンツを展開しました。 ○TOMAKOMAI MIRAI FEST2025の実施 ・キラキラ公園において、有料エリアとして、アーティストによるライブパフォーマンスやお笑いライブを開催 ・無料エリアでは、GXコンテンツを活用した市及び協賛企業のプロモーション活動を行うほか、ダンスバトルやキッチンカーの出店を実施				
	・関係部局との連携強化や積極的な情報収集等により、地域の安全・安心とスムーズなクルーズ船の入港に配慮した受入体制の構築を目指します。その上で、関係団体と連携し、クルーズ船入港時における歓迎体制の充実化と、地域の潜在的なクルーズコンテンツの魅力の発見などに取り組み、苦小牧港の魅力発信と地域振興に努めてまいります。 ・苦小牧港が、北海道はもとより日本経済を支える港湾であることを広く周知するため、苦小牧港の歴史や役割について、市民の目線に立った情報提供等を継続的にを行います。 ・キラキラ公園における賑わい創出事業を定着させ、ウォーターフロントの魅力を向上させることで、市内外からの交流人口のさらなる増加を図り、恒常的な賑わいへとつなげる。				

4 ポートセールスの推進		評価点	4	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
（R7年度） 具体的な取組 今後の取組の方向性	・国内外各地の荷主及び船社等に対する訪問活動の実施（訪問件数延べ61件） ・他港との連携や新規航路の誘致に向けた取組の実施（はちとまネットワーク会議へ参加） ・展示会、商談会等への出展によるPR活動を実施 ・国や北海道などの関係機関と連携して小口混載コンテナ輸出拡大の取組を実施				
	・苦小牧港の認知度向上や取扱貨物量の増加、新規コンテナ航路の就航を見据え、国内外における船社訪問や各種PR活動といったポートセールスを引き続き進めます。 ・国や北海道と連携して、農水産物輸出拡大に向けたプロジェクトへの支援を行います。				

自己評価

B

企業誘致について、良好な成果が得られている。引き続き戦略的な企業誘致に努めていく。

SDGs17の目標



基本目標

苫小牧東部開発の基軸である企業誘致に戦略的に取り組むほか、地域特性やこれまでの産業集積をいかし、新たな産業や開発の核となるプロジェクトの導入、ゼロカーボンに向けた取組等を推進し、更なる産業の集積を図るとともに、豊かな自然と調和した苫小牧東部地域を目指します。

評価指標

指標	基準値	目標値	R5	R6	R7	R8	R9
「工業地域の開発と企業の誘致を進めること」への市民満足度（％）	68.3	70.0	—	—	—		
工業団地内において新規に土地を購入した延企業数（社）	832	846	853	868	877		

主要施策の取組状況

1 苫小牧東部開発の推進		評価点	4	担当部署	産業経済部 企業港湾政策課
(R7年度) 具体的な取組 今後の取組の方向性	・立地を検討している企業や関連企業への訪問を行い、企業ニーズに応じた積極的な誘致活動を展開 ・周辺自治体や各種団体と連携し企業誘致フェア等へ出展するなど本市の立地環境の優位性を広く周知 ・立地企業訪問による企業ニーズの把握				
	・自動車関連産業をはじめとするものづくり産業の集積、港湾や空港を擁する利点を生かした物流拠点としての優位性のさらなる向上を目指し、関係機関と連携を図り取組を進めます。 ・次世代半導体や大規模データセンターなどの次世代産業や再生可能エネルギーをはじめとする脱炭素関連産業など、今後成長が見込まれる産業の展開を見据え、本市の立地優位性を最大限にアピールした誘致活動を展開し、戦略的に取組を進めます。 ・苫小牧東部開発新計画及び第3期の進め方の内容を踏まえ、関係機関とともに開発の核となる公的プロジェクトの招致等含めた要望活動を実施します。				